

酒米づくりで地域おこし

「以前のように多くの人を招いて盛大に実施したい」。こう語るのは栗原市金成有壁地区の農業者105名で構成される「有壁創生会」の理事長を務める阿部均（73）さんだ。



同会では、宮城県やNPO法人アグリネット21と地元農家が連携し、地域資源を活用した体験や交流を通して地域の文化を伝える活動をしている。

活動の中で、地元の蔵元と協力し酒米づくりを行っており、親子で取り組

む稲作体験を開いている。

しかし、ここ数年はコロナ渦により規模を縮小して開催。今年は関係者のみで酒米「吟のいろは」の田植えを行った。

今年は感染状況を考慮しながら7月に田んぼの生きもの調査、収穫期には稲刈り作業や稲わらを使った市のマスコットキャラクター作りなどを予定している。

収穫された酒米は、地域の酒造会社の萩野酒造から「天水(てんすい)の郷(さと) 有壁(ありかべ)」の商品名で発売される。

同会は、この行事のほか、地域の農地の集約・保全、地域おこし協力隊と連携して地域に人を呼び込む事業などにも取り組み、地域に貢献している。

